

## 【参考】地区別整備計画

本計画に掲げる3つの基本方針に基づき、商業・業務等都市機能が集積している「通町・桜町周辺地区」、本市の陸の玄関口として整備を進めている熊本駅及びその周辺を含む「熊本駅周辺地区」、それら地区を結ぶ役割を果たし、城下町としての町割りや資源のある「新町・古町地区」及び熊本の象徴である熊本城や多数の歴史・文化施設のある「熊本城地区」の特色・機能を活かし、区域全体を効果的かつ一体的に整備していくものとする。具体的には、以下の整備方針を定めるものとする。

### 1 熊本城地区

#### (1) 現状と課題

- 本地区には、平成19年に築城400年を迎えた熊本城があり、また、その他にも、県立美術館や熊本博物館等の文化施設などが多く立地している。
- 熊本城は、近年、年間80万人前後の安定した入園者数を維持している。しかし、来園者の多くは通過型で滞在時間が極めて短い状況となっている。
- 市民にとっての熊本城は、春の花見、季節ごとのお城まつり、ウォーキングなど市民の憩いの場にもなっている一方で、通町・桜町周辺地区等に訪れる買物客の休憩やアメニティ空間としての利用が十分とは言えず、加えて、熊本城を訪れる観光客が通町・桜町周辺地区等へ買い物等で流れていかないなど、回遊性の課題がある。
- 今後は、熊本城が有する歴史的な価値や集客ポテンシャルを活かし、滞留機能の充実やアメニティの場としての機能強化を図り、周辺地域と一体となった回遊性の向上に努めなければならない。

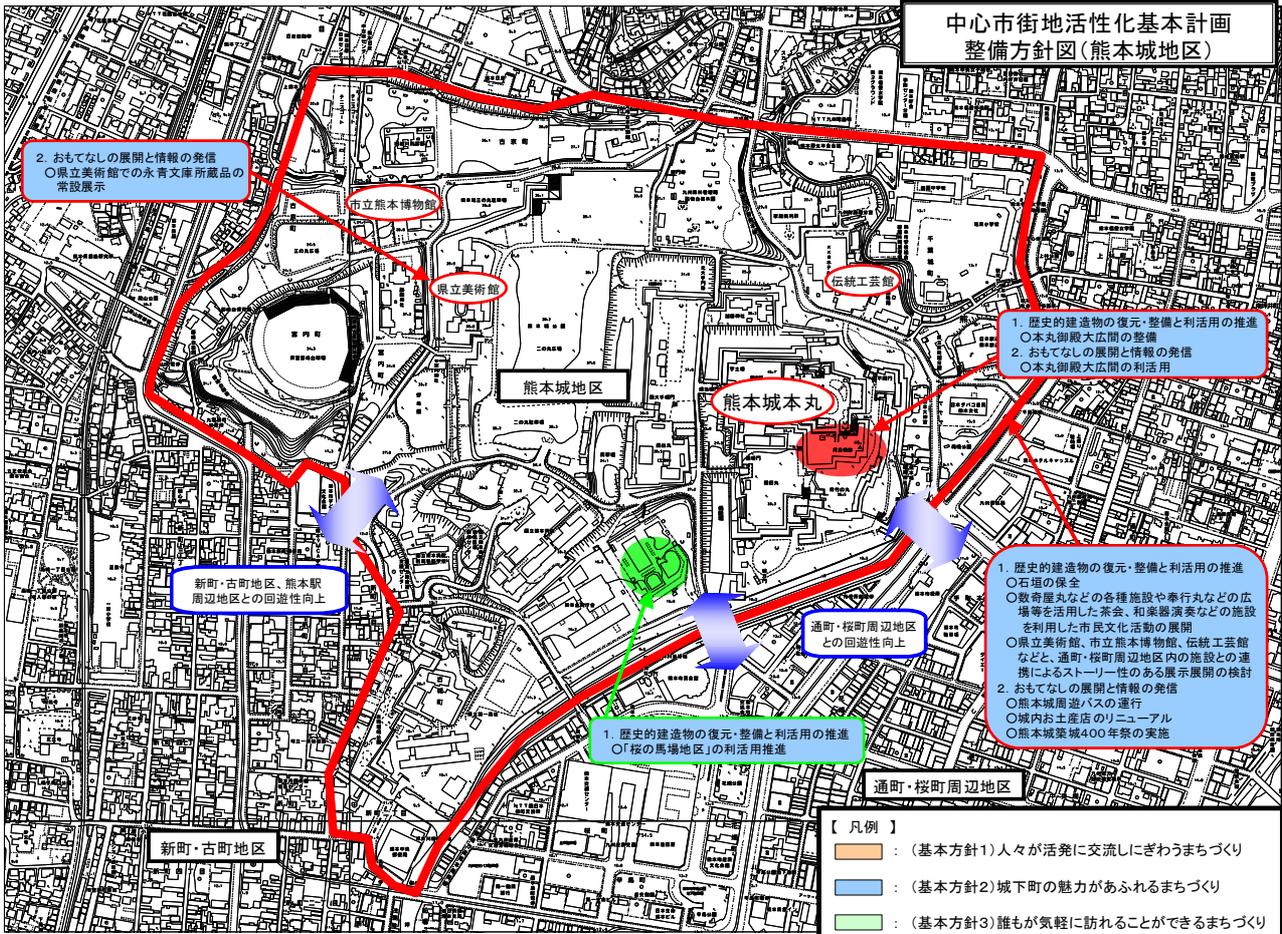
#### (2) 整備方針

築城400年を迎えた熊本城の歴史的な価値をさらに高めるため、本丸御殿大広間をはじめ各種歴史的建造物の復元整備を着実に推進し往時の勇姿を今日に復元するとともに、周遊バスの運行や散策路の整備、また、土産物店のリニューアル、さらにはサイン計画等において、熊本博物館、県立美術館、県伝統工芸館など城域及び周辺の文化施設、あるいは通町・桜町周辺地区や新町・古町地区など周辺地域との連携を強化しまち歩きを促進するなど、周辺地域との一体性と回遊性の向上に努める。

また、お城のエントランス部にあたる『桜の馬場』については、観光客へのサービス向上と滞留時間を延ばすため、休憩所、レストラン、土産物店等などの機能を備えた施設整備を検討するなど、新たな魅力の創出に取り組む。

さらに、本丸御殿大広間の利活用など、国内外に向けた熊本ならではの魅力をアピールするとともに、築城400年を契機とした効果的な情報発信の展開を図る。

中心市街地活性化基本計画  
整備方針図(熊本城地区)



2. おもてなしの展開と情報の発信  
○県立美術館での永青文庫所蔵品の常設展示

市立熊本博物館

県立美術館

伝統工芸館

熊本城地区

熊本城本丸

新町・古町地区、熊本駅  
周辺地区との回遊性向上

通町・桜町周辺地区  
との回遊性向上

1. 歴史的建造物の復元・整備と利活用の推進  
○「桜の馬場地区」の利活用推進

1. 歴史的建造物の復元・整備と利活用の推進  
○石垣の保全  
○数寄屋丸などの各種施設や奉行丸などの広場等を活用した茶会、和楽器演奏などの施設を利用した市民文化活動の展開  
○県立美術館、市立熊本博物館、伝統工芸館などと、通町・桜町周辺地区内の施設との連携によるストーリー性のある展示展開の検討  
2. おもてなしの展開と情報の発信  
○熊本城周遊バスの運行  
○城内お土産店のリニューアル  
○熊本城築城400年祭の実施

【 凡例 】

- : (基本方針1)人々が活発に交流しにぎわうまちづくり
- : (基本方針2)城下町の魅力があふれるまちづくり
- : (基本方針3)誰もが気軽に訪れることができるまちづくり